



第18号  
 令和7年1月8日  
 府中市立  
 府中第八中学校



〔在籍生徒数〕 一学年215名、二学年247名、三学年261名  
 全校生徒数723名  
 〈学校住所・電話番号〉  
 〒183-0035 府中市四谷一丁目二八二七  
 電話 〇四二(三六四)一八八一  
 ★今年も、どうぞよろしくお願ひいたします。引き続き、学校だよりのご感想、ご意見等をお寄せください。

詩の本文等について  
 校外向け配布及び  
 ホームページ掲載  
 のための  
 掲載許可を  
 得られていませんので  
 掲載しません

《花の詩画集》

速さの違う時計「かぶ」

星野富弘

(偕成社)より

※偕成社から学校だよりへの掲載の  
 許諾をいただいています。

『新しい年がスタート！一月一日の気持ちをもち続けたい』（始業式講話）  
 校長 高汐 康浩

この詩は、星野富弘さんが一九九〇年につくられた詩です。すべての人が、いつも「一月一日」の気持ちをもち生活できたなら・・・きっと、本当に平和なことでしょう。一月一日には、きっと誰もが、これから始まる一年間のことを考えるのではないのでしょうか。もしかすると、一年三六五日の中でおだやかな気持ちをもって人が一番多い日かもしれません。

しかし、人間には心があります。ですから、うれしくて、うれしくて飛び跳ねてしまうこともあれば、くやしくて、くやしくて涙が出てしまうこともあります。喜んだり、怒ったり、その気持ちは常に一定ということはありません。個人だけでなく社会もそうです。「社会の縮図」である学校には、自分の思い通りにならなかったり、いやな思いをしたりすることがあります。皆さんもよく分かっていることだと思います。

私は、お正月に箱根駅伝をテレビで観戦します。いつも選手の走りを見ながら、母校の活躍を応援しながら、一人一人にいろいろなドラマがあったのだらうなど思いながら見えています。以前、ある選手が残した「腐っていた時期もある。でも人に支えられ、ここまで来られた。次は自分が人の成長を支えられる人になりたい。」という言葉は本当に印象的でした。今年も感動的な場面をたくさん見ることができました。青山学院大学の四年生のある選手は、「支えてくれたすべての方々への感謝の気持ちをもち続けることを大切にしながら今日を迎えた。」と言っていました。

八中生の皆さんには、「一月一日」の落ち着いた気持ちをもつとともに、「初心」をときどき意識してほしいと願っています。あわせて、自分を支えてくれている全てにいつも「感謝」する気持ちをもってほしいと思います。私自身も、初心を忘れずに、「笑顔で挨拶を交わし、小さなことにもよろこび、嘘を言わず悪口も言わず、全てのことへ感謝し、人のしあわせを祈る」こんなことが普通に行えるようになってほしいと思います。

